



2023年御正忌報恩講

同朋新聞

どうぼうしんぶん

Dōbō Shimbun

11

Vol. 792 November 2023

Shinran 500th

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

宗務総長挨拶

木越 渉



本廟を基として

本年も宗祖親鸞聖人の御正忌報恩講をお迎えさせていただきます。

まずもって、今春にお勤まりになりました「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗八百年慶讃法要」においては、「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」のテーマのもと、国内外の御同朋とともに稀有なる御仏事にお会いでき、整齊に完遂されました。

境内に響き渡る「正信偈」に身が震え、かけがえない値遇の機会をたまりましたことに、あらためまして甚深の感謝を申し上げます。

慶讃法要を出発点として今、私たちは宗祖からの呼びかけを聞き続け、人間としての足もと、道(方向)を明らかにしていくことが何よりも肝要であります。その「呼びかけの書」こそが、宗祖真筆の『教行信証』坂東本です。

八百年の時を超えて伝えられてきた宗祖の肉筆に触れていくことで、親鸞聖人に私たちが向き合っていく。宗祖は人と生まれて、ど

んな課題を持ち、どうお念仏に遇い、人に出遇われてきたのかを、宗祖の言葉に尋ね聞いていく。身に引き当てていく。そして、自身が大悲の中にあることに常に立ち返らせていただく。正に聞思していくことが願われます。

仏教は長い歴史をかけて、関係性を生きる「人間」を課題とし、人と生まれたことの意味をたずね続けてきた教えです。その聞思の証、宗祖の仏教史観が明示されているのが『教行信証』です。宗祖の求道に触れることで、何が私たちに願われ、何をすべきなのか、常に問われてくるのです。

無明長夜の燈炬なり
智眼くらしとかなしむな
生死大海の船筏なり
罪障おもしろなげかざれ

既にして我々の足もと、立ちどころは、お念仏の教えによつて照らされています。

お念仏に絶対的な信頼を持つて、お念仏申されてきた先達の尊い歩みに連なっている私たち。その歩みに欠かすことができない場、それが宗祖の御真影がまします真宗本廟です。

私たちの先達は、真宗本廟に集い、いただいた信心の灯を郷に持ち帰り、お念仏の聲が聞こえる場を家庭や地域に相続してくださいました。そのおかげで今、南無阿弥陀仏の教

えが私たちに届けられています。それは「集う」ことを渴望し、集まり(僧伽)の中で仏法をいただくことを大切にできた歴史です。

長いコロナ下であつて、仏法聴聞に集う場を開くことが難しい状況が続きました。慶讃法要がお勤まりになったことで、無意識の内に渴望してきた「集い聞く」尊さを、あらためて実感することができました。つまり今、対話と共感が織り成してきた温もりを回復していく契機を得ているのです。

その意味において、再出発の報恩講です。私たちに届けられしお念仏の御教えを、真宗本廟という場を、厳肅に、真摯に、受けとめ直す機会として、御真影のおんもとで相共にお念仏を申しませう。そして信心の灯を生活の場に持ち帰り、相続してまいりませう。

なお、このたびの報恩講期間中、阿弥陀堂において、『教行信証』坂東本(影印本)を展示し、解説も行つてまいります。

親鸞聖人から私たちへの自筆のお手紙にふれ、その筆致から感情や思いを垣間見て、宗祖の聞思のお姿を感じていただく機会となることを願っています。

一人でも多くのご参拝を、心よりお待ちしております。

南無阿弥陀仏

CONTENTS

2・3面

人間といういのちの相
誰もが生きやすい社会に
山口 のり子さん



6・7面

特集
真宗本廟報恩講のご案内



8面

首都圏・福岡都市圏に転居されたご門徒と郷里のお寺のご縁をつなぐ
東本願寺仏事サポートセンター



4面

現在を生きる

縁家 - お寺の掲示板 -
第4回

5面

親鸞聖人にであう
第16回

9面

聞 今月の法話 第37回



東本願寺YouTubeにて慶讃法要の様子を一部アーカイブ公開しています。

慶讃法要 アーカイブ 検索

発行所
真宗大谷派宗務所
代表者 木越 渉
編集/東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)
購読料 無料
送料 1部 1万円1,300円(部数により変動)
振替口座番号 01000-6-27404
加入者名 東本願寺出版部

連載

人間といういのちの相



加害者プログラムグループワークの様子

ある男性の加害者がこういうことを言いました。結婚する前、親と暮らしていた時に、「お母さん、お茶」と言ったら、「あなたそれは、早くお嫁さんをもらうていれてもらいなさい」と言われたそうです。彼はその時に、早くお嫁さんをもらうてお茶をいれてもらったりしなければと思ったそうです。

つまり、母親もそうやって男の子を育ててしまふのです。「あなたの面倒は女の子が見るんだ」「面倒を見てくれる人を探すんだ」と。また女性にも言葉や自分の行動で示したりするわけです。それがジェンダー規範です。そういった伝統的な家庭観を変えていかなければなりません。

「DVは犯罪に至らない」という問題を著書でお書きになられていますが、詳しくはどういったことなのでしょうか。

日本では、DVは傷害罪や暴行罪で起訴するしかありません。しかし、被害者も、加害者が変わらなければ、被害者を探し出し、同じことを繰り返します。それでは何も問題解決にならず、そもそもDVをなくすには、加害者をなくさなければいけないのです。そのためには、加害者が生まれにくいような社会にしなければならず、被害者支援だけでなく、被害者の対策も重要だと感じたのです。

その後、ロサンゼルスに渡りました。ロサンゼルスのあるアメリカでは、DVを深刻な社会問題だと受けとめ、DVに関する法律が作られています。また、ほとんどの州で加害者対策が進んでおり、裁判所命令で加害者プログラムの受講が義務付けられています。私はそこで、加害者プログラムの実施者養成の研修を受け、帰国後、日本でも加害者のためのプログラムを実施するために、東京で「アウェア」を設立したのです。

「加害者の問題という視点で、あらためてDVとはどういうものだろうか。」

DVは「Domestic Violence」といって、英語の頭文字の「D」と「V」を合わせて、使われています。その意味は、「夫婦や恋人など親密な関係の人への暴力」です。「親しい」という意味ではなく、もつと特別な意味で「親密」という言葉を使います。

DVは、さまざまな力や権力を、悪用・乱用して、相手を自分の思いどおりにコントロールし、支配することが目的です。そしてそのための手段として暴力を選びます。それは、体への暴力だけではなく、加害者にとって効果的な手段を意識的、あるいは無意識に選ぶのです。ですから、DVは、力と支配だということです。そして、ジェンダーに基づく暴力だということです。ジェンダーというのは、社会的、文化的につくられ、規定された性差です。つまり、男らしさや女らしさ、男の役割や女の役割の決めつけのことです。これは社会も人々もお互いに枠をはめ合っているのですが、

そこら起る暴力だということです。DVは、力と支配そしてジェンダーに基づく暴力という2つがポイントです。

暴力を引き起こすもの

なぜDVが引き起こされてしまうのでしょうか。

私たちは、加害者がただ悪い人だとは思いません。なぜなら、DVは、成長過程で周りの大人の姿を見ながら、学んだことだからです。

DVは、けんかとは異なります。けんかは相手を尊重できてはいいませんが、少なくとも関係性は対等です。ところが、DVは、相手との関係性が、上下関係、主従関係になってしまいます。この力と支配の価値観、関係性は、その人が育った家庭や社会で学ぶのです。

周りに目を向けると、この社会には漫画や映画、ゲームなどに暴力があふれ、悪を暴力でやっつけるヒーローが格好よく描かれています。それを見た子どもたちは、暴力は問題解決の手段になることを学びます。

そしてジェンダー規範も学びます。「男はこうあるべき、女はこうあるべき」という決めつけの影響はとても強いのです。女性は生まれたときから、周りの人たちに気遣い、気が利く子がいいとか、「男の人の面倒をみるんだよ。それこそが女の役割だよ」と、学びながら育ちます。

一方、男性は、親密な関係の女性は自分の世話をしてくれ、自分の気持ちいつも受け入れ、許してくれる人だという期待を抱き、成長していきます。そして、その期待に相手は応えていないと感じると、相手に失望し、怒りの感情が芽生え、「罰したい」という感情が生まれます。DVは、相手を罰するためであることが多いという傾向があります。

ですからジェンダー規範に基づいて、相手に求める価値観を、多くの人がこの社会で学ぶのです。それがDVを引き起こしているのではないのでしょうか。

「DV(ドメスティック・バイオレンス)」。配偶者などからの暴力を指すこの言葉を、おそらく耳にしたことがあるでしょう。痛ましいと思う一方、自分とはどこか遠いところにある問題として受けとっていることはないでしょうか。ジェンダー平等の社会を目指して長く活動も、加害者が変わらなければ、被害者を探し出し、同じことを繰り返します。それでは何も問題解決にならず、そもそもDVをなくすには、加害者をなくさなければいけないのです。そのためには、加害者が生まれにくいような社会にしなければならず、被害者支援だけでなく、被害者の対策も重要だと感じたのです。

その後、ロサンゼルスに渡りました。ロサンゼルスのあるアメリカでは、DVを深刻な社会問題だと受けとめ、DVに関する法律が作られています。また、ほとんどの州で加害者対策が進んでおり、裁判所命令で加害者プログラムの受講が義務付けられています。私はそこで、加害者プログラムの実施者養成の研修を受け、帰国後、日本でも加害者のためのプログラムを実施するために、東京で「アウェア」を設立したのです。

「加害者の問題という視点で、あらためてDVとはどういうものだろうか。」

DVは「Domestic Violence」といって、英語の頭文字の「D」と「V」を合わせて、使われています。その意味は、「夫婦や恋人など親密な関係の人への暴力」です。「親しい」という意味ではなく、もつと特別な意味で「親密」という言葉を使います。

DVは、さまざまな力や権力を、悪用・乱用して、相手を自分の思いどおりにコントロールし、支配することが目的です。そしてそのための手段として暴力を選びます。それは、体への暴力だけではなく、加害者にとって効果的な手段を意識的、あるいは無意識に選ぶのです。ですから、DVは、力と支配だということです。そして、ジェンダーに基づく暴力だということです。ジェンダーというのは、社会的、文化的につくられ、規定された性差です。つまり、男らしさや女らしさ、男の役割や女の役割の決めつけのことです。これは社会も人々もお互いに枠をはめ合っているのですが、

そこら起る暴力だということです。DVは、力と支配そしてジェンダーに基づく暴力という2つがポイントです。

暴力を引き起こすもの

なぜDVが引き起こされてしまうのでしょうか。

私たちは、加害者がただ悪い人だとは思いません。なぜなら、DVは、成長過程で周りの大人の姿を見ながら、学んだことだからです。

DVは、けんかとは異なります。けんかは相手を尊重できてはいいませんが、少なくとも関係性は対等です。ところが、DVは、相手との関係性が、上下関係、主従関係になってしまいます。この力と支配の価値観、関係性は、その人が育った家庭や社会で学ぶのです。

周りに目を向けると、この社会には漫画や映画、ゲームなどに暴力があふれ、悪を暴力でやっつけるヒーローが格好よく描かれています。それを見た子どもたちは、暴力は問題解決の手段になることを学びます。

そしてジェンダー規範も学びます。「男はこうあるべき、女はこうあるべき」という決めつけの影響はとても強いのです。女性は生まれたときから、周りの人たちに気遣い、気が利く子がいいとか、「男の人の面倒をみるんだよ。それこそが女の役割だよ」と、学びながら育ちます。

一方、男性は、親密な関係の女性は自分の世話をしてくれ、自分の気持ちいつも受け入れ、許してくれる人だという期待を抱き、成長していきます。そして、その期待に相手は応えていないと感じると、相手に失望し、怒りの感情が芽生え、「罰したい」という感情が生まれます。DVは、相手を罰するためであることが多いという傾向があります。

ですからジェンダー規範に基づいて、相手に求める価値観を、多くの人がこの社会で学ぶのです。それがDVを引き起こしているのではないのでしょうか。

「アウェアにはどのような方が訪れ、またプログラムにおける帰着点をおのうに考えておられますか。」

アウェアに来る人たちは、一般的な社会人生活を送っている人ばかりです。つまり、誰でも加害者になり得るということです。それは、社会がDV加害者を生み出しているということでもあります。社会の間違った価値観や、女性を差別する社会構造の中で、多くの人が間違った価値観を学ぶ。それを何の疑いもなく信じ込んで、親密な関係をつくり、対応するために、DVをしてしまうのです。

DVは価値観の問題です。病気ではありません。彼らに必要なのは、治療ではなく教育なのです。ですから、アウェアでは、グループでの教育プログラムを行っています。このプログラムでは、DVが、相手を支配するための手段として、自分が選んだ行為であることに気づき、やめることを目指します。そして、自分の価値観や認識をあらためて、DVときちんと向き合い、責任を取ること、また、相手に対等な人として尊重する態度や行動が取れるように体得して、それを実行することが目的です。

これは本人次第なので、プログラムに参加したからといってその人が変わる保証はありません。ただ、グループでやることにとても効果があつて、素直に仲間間の男性たちの話を聞き、仲間を自分の鏡にできる人は気づいていきます。そういうグループの心理的相互作用にとても効果があつて、気づきを積み重ねていきます。

自分のことはわからなくても、人のことはわかります。だから、それをお互いにやるのです。そして、素直に聞き合うことが大切なのです。

途中で辞めてしまつたり、変わるのにも時間がかかつたりする人もいますが、この場所が自分にとって必要だと思ふ方は長く在籍します。

「価値観は、長い間身に備わり、消えてなくなるものではないでしょうか、その問題を自分の中で見つけ続けていくしかないのでしょうか。」

そうですね。私たちは、「学び、落とし」という言葉を使っているのですが、「気づいて、捨てる」ということを指します。いけないことだと気づいたら、それを自分の身からべりべりりと剥がして捨てていくけないのです。でも、価値観はそんなに簡単に捨てられないですよ。しっかりと根を張っているし、気づきにくい。

「キャベツの皮むきのようなものだ」という方もいるのですが、一枚剥がしても、まだいっぱいあつて、その後もずっと剥がしていかなければいけない。本当に努力と忍耐と時間がかかります。それを諦めないで続ける人は、少しずつずつ変わっていきます。

とてもしんどい作業だからこそ、アウェアのような助け合いの場が必要なのだと思います。

「身近にも被害者の方がおられるような気がしますが、我々は生活している中でそのような問題になかなか気づけない。また、我々自身が加害者であることに気づけずにいることも多いのではないのでしょうか。」

DVは、被害を受けている人の方が恥ずかしいと口をつぐんでしまします。恥ずべき行為をやっているのは加害者なのですが、親密な関係の相手から暴力を振るわれていることは、恥ずかしいことだと被害者が自分を責めることが多いのです。

アウェアには、これまで900人近く加害者の方が面談に来られ、その半分の方がプログラムに参加されま

子どもたちは、暴力は問題解決の手段になることを学びます。

そしてジェンダー規範も学びます。「男はこうあるべき、女はこうあるべき」という決めつけの影響はとても強いのです。女性は生まれたときから、周りの人たちに気遣い、気が利く子がいいとか、「男の人の面倒をみるんだよ。それこそが女の役割だよ」と、学びながら育ちます。

一方、男性は、親密な関係の女性は自分の世話をしてくれ、自分の気持ちいつも受け入れ、許してくれる人だという期待を抱き、成長していきます。そして、その期待に相手は応えていないと感じると、相手に失望し、怒りの感情が芽生え、「罰したい」という感情が生まれます。DVは、相手を罰するためであることが多いという傾向があります。

ですからジェンダー規範に基づいて、相手に求める価値観を、多くの人がこの社会で学ぶのです。それがDVを引き起こしているのではないのでしょうか。

誰もが生きやすい社会に

インタビュー ● 山口のり子さん

「DV(ドメスティック・バイオレンス)」。配偶者などからの暴力を指すこの言葉を、おそらく耳にしたことがあるでしょう。痛ましいと思う一方、自分とはどこか遠いところにある問題として受けとっていることはないでしょうか。ジェンダー平等の社会を目指して長く活動も、加害者が変わらなければ、被害者を探し出し、同じことを繰り返します。それでは何も問題解決にならず、そもそもDVをなくすには、加害者をなくさなければいけないのです。そのためには、加害者が生まれにくいような社会にしなければならず、被害者支援だけでなく、被害者の対策も重要だと感じたのです。

その後、ロサンゼルスに渡りました。ロサンゼルスのあるアメリカでは、DVを深刻な社会問題だと受けとめ、DVに関する法律が作られています。また、ほとんどの州で加害者対策が進んでおり、裁判所命令で加害者プログラムの受講が義務付けられています。私はそこで、加害者プログラムの実施者養成の研修を受け、帰国後、日本でも加害者のためのプログラムを実施するために、東京で「アウェア」を設立したのです。

「加害者の問題という視点で、あらためてDVとはどういうものだろうか。」

DVは「Domestic Violence」といって、英語の頭文字の「D」と「V」を合わせて、使われています。その意味は、「夫婦や恋人など親密な関係の人への暴力」です。「親しい」という意味ではなく、もつと特別な意味で「親密」という言葉を使います。

DVは、さまざまな力や権力を、悪用・乱用して、相手を自分の思いどおりにコントロールし、支配することが目的です。そしてそのための手段として暴力を選びます。それは、体への暴力だけではなく、加害者にとって効果的な手段を意識的、あるいは無意識に選ぶのです。ですから、DVは、力と支配だということです。そして、ジェンダーに基づく暴力だということです。ジェンダーというのは、社会的、文化的につくられ、規定された性差です。つまり、男らしさや女らしさ、男の役割や女の役割の決めつけのことです。これは社会も人々もお互いに枠をはめ合っているのですが、

そこら起る暴力だということです。DVは、力と支配そしてジェンダーに基づく暴力という2つがポイントです。

暴力を引き起こすもの

なぜDVが引き起こされてしまうのでしょうか。

私たちは、加害者がただ悪い人だとは思いません。なぜなら、DVは、成長過程で周りの大人の姿を見ながら、学んだことだからです。

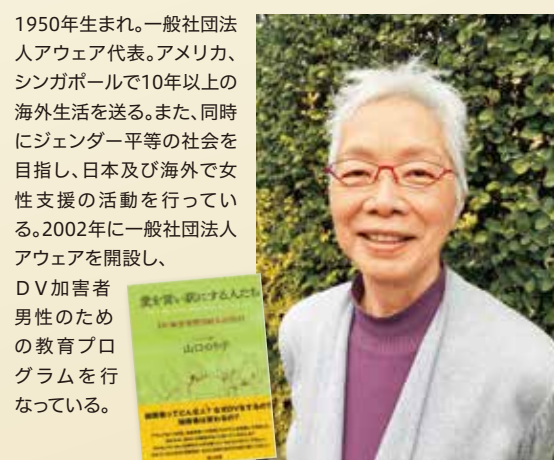
DVは、けんかとは異なります。けんかは相手を尊重できてはいいませんが、少なくとも関係性は対等です。ところが、DVは、相手との関係性が、上下関係、主従関係になってしまいます。この力と支配の価値観、関係性は、その人が育った家庭や社会で学ぶのです。

周りに目を向けると、この社会には漫画や映画、ゲームなどに暴力があふれ、悪を暴力でやっつけるヒーローが格好よく描かれています。それを見た子どもたちは、暴力は問題解決の手段になることを学びます。

そしてジェンダー規範も学びます。「男はこうあるべき、女はこうあるべき」という決めつけの影響はとても強いのです。女性は生まれたときから、周りの人たちに気遣い、気が利く子がいいとか、「男の人の面倒をみるんだよ。それこそが女の役割だよ」と、学びながら育ちます。

一方、男性は、親密な関係の女性は自分の世話をしてくれ、自分の気持ちいつも受け入れ、許してくれる人だという期待を抱き、成長していきます。そして、その期待に相手は応えていないと感じると、相手に失望し、怒りの感情が芽生え、「罰したい」という感情が生まれます。DVは、相手を罰するためであることが多いという傾向があります。

ですからジェンダー規範に基づいて、相手に求める価値観を、多くの人がこの社会で学ぶのです。それがDVを引き起こしているのではないのでしょうか。



この紙面では、さまざまな人を通して、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思います。

通信員リレーレポート Vol.241

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介しします。



森谷 佳保里さん(ご自宅にて)

岡崎教区第1組 覺恩寺門徒
森谷 佳保里さん(59歳)

待ってこれていた阿弥陀様

愛知県岡崎市に住む森谷佳保里さんは、31歳の時にお連れ合いを病気で亡くされた。このことを縁として、覺恩寺に足を運ぶようになった。しかしながら、その時はお斎の手伝いをするのみで、腰を据えて聞法することはなかったという。

後に、覺恩寺に併設されている保育園に勤め始め、よりお寺が身近な存在になる。だが、4人の子育てが一段落すると、それまでの疲れが一気に出て、心身ともに不調になってしまった。そんな森谷さんの姿を見た覺恩寺の若院(現在の住職)から、「元気になるかわからないけど、「心の元氣塾」という聞法会があるから聞きに行きませんか?」と誘われ、足を運んだのが初めての聞法の場だった。森谷さんは当時を、「家にお内仏があり、職場も御本尊のおそばにありながら教えを聞いてこなかった。20年も阿弥陀様は待ってこれていたんだ」と振り返る。



本證寺のガイドをする森谷さん(中央)

現在を生きる

団に参加。すると初めての奉仕団が全国の推進員さんの集まりであり、参加者の熱心さに圧倒されたとのこと。たくさん受けた刺激の中で「日頃眠れない私が阿弥陀様の傍でぐすり眠れ、親鸞さんの近くに居られることに涙が出るほどうれしかった」と穏やかに話された。

聞法の場に足を運び続けると、法友の輪が広がった。現在は「ほどける仏教」という聞法会のスタッフや、安城市のボランティアガイドとして三河一向一揆の舞台として大河ドラマにも登場した本證寺の案内をされている。ガイドの仕事を通じて、話すことの難しさに、「法話の先生はもつと何倍も準備をされている。自分ももつと大事に聞法しなければ」と、聞法に対するご自身の姿勢として、常に問い返しをされている。

最後に「ふと、阿弥陀様は言葉や人となつて現れてくださると感じる事があふ」と語られた森谷さん。

毎日「本尊に手を合わせる生活をしている私にとって、森谷さんと同じような感覚を持ち合わせているだろうか。私の生活や思いも問われるお話をいただいた。

岡崎教区通信員 上野 瞭

縁 お寺の掲示板

第4回

お寺の掲示板に込められたさまざまな願いを、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。

寺 康安寺 (大垣教区 第6組)
岐阜県大垣市西之川町1-2098
住職 谷 光真

猫判が あわれ人国

出典：榎本栄一「煩惱林」(難波別院)

昨今報道される詐欺や経済に関する事件。この言葉は、金銭に振り回されていく私たちの現実を、まさに言い当てているのではないのでしょうか。法語を見た方にとって、生きる上で何が本当の大切なかを問うきっかけになればと思います。

康安寺の掲示板は、通学路に面した場所にあり、隣には地域の集会所が建っている。「普段お寺に来られない方にも、掲示板は見てもらえらる」と語る住職の谷光真さん。掲示板の前を通る子どもたちや地域の方々に興味を持ってもらえるよう、仏教者の言葉に限らず、歌詞や漫画のセリフなどさまざまな言葉が掲示される。

心にとまった言葉をその都度書き留めておき、社会情勢を鑑みて家族で決めているうえで、この家族会議は、寺族自身が社会と仏様の教えについて考える大切な時間にもなっている。

康安寺Instagram



KOUANJI_1301

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入 Tel.075-343-0458 Fax.075-371-0458

法蔵館

http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp 新刊メール配信!
お買上16,500円(税込)以上送料無料 表示価格はすべて税込

親鸞聖人出家得度時の無常詠歌の謎 新刊

合掌の道 新刊

住職必携

登高座作法 新訂版

報恩講勤行集

門徒報恩講勤行集

報恩講特集

新案立体紙芝居 親鸞さま 上・中・下巻各9枚 37.5×52.5cm 別冊台本2冊・特製舞台付き 解説=菊池政和・88,000円



在庫僅少

2024年ほのぼのカレンダー

東井義雄 谷内正遠 文字・絵 一五〇円 スケジュールの書き込みが便利で大きなサイズ。寺院名など印刷可能(要実費) ほのぼのカレンダー 法語解説書 お米のこち心から拝んでいただく 東井義雄 一〇〇円



「還」

「問いに生きた人」

関東での生活が20年程経った頃、親鸞聖人は京へお戻りになります。理由は定かではありません。形が整った『教行信証』の「完成」または「充実」、「充足」を目指されたのでしょうか。

『教行信証』には、1200年頃に宋(中国)で出版され、留学僧によって日本に持ち帰られた最新の書からの引用もあります。関東でも手に取れたかもしれませんが、京には信心を同じくする法然門下のお仲間がおられました。念仏に生きる人に対する厳しい弾圧の元でも、浄土の教えに関する書を多く集めておられ、そのお仲間を通してなら、きつとこの書に出あえるであろうとの思いがあったのかもしれませんが。

また、ある先生は長く離れていた故郷に帰りたいたいの思いを理由に挙げておられます。聖人がふるさと恋慕の心を抱かれたのを想像すると、そこに「温もり」を感じて私はうれしくなります。

『教行信証』は「漢字」で書かれており、学識者に向けた論文だったのでしょう。晩年の聖人は、法然上人の教えを内に深く問い続け、さらには広く伝えるため「仮名」書きの書や和讃の執筆にも力を注がれます。80歳を超えても、その意欲は衰えることがありませんでした。

1262(弘長2)年、現在の御池中学校(京都市中京区)のあたりにあった善法院で、娘の覚信尼をはじめ、有縁の人々に見守られてお亡くなりになったと伝えられます。浄土にお還えりになったのです。聖人90歳のことでした。

親鸞聖人に
であう

浄土真宗をあきらかにされた親鸞聖人。大谷中・高等学校「京都」で生徒とともに学ばれている乾さんと、中高生の素直(リアル)な問いを手がかりに、「人と生まれたことの意味」を親鸞聖人のご生涯に学んでいきます。



乾 文雄
京都教区近江第5組
正念寺住職
大谷中学・高等学校講師

「親鸞さんは最後まで、人の上に立つてはえたるぞ〜」とかいう生き方をされなかつた人やなくと思つたよ」
「話は大きく変わるけど、私の大事な中川皓三郎という先生は、阪神が好きでな。」「口ナ前に甲子園に行つたのよ。負けたけど。ちなみに先生とは3回ぐらい行つて全敗。その帰りに『死ぬ前にもういっぺんタイガースの優勝見たいな』と言つてはつた。でもそれは叶わなかつた。それを思いだしてな、先日その先生の本持つて甲子園に行つてきた。球場で本を掲げて乾杯したら泣けてきた。隣の人にガン見されたけど。11連勝して優勝したのにその試合はやっぱり負けた」
「その先生に聞いたことがあるんよ。親鸞さんの問いってなんやつたんですかね。ほならいんなかうに教えてくれはつた」
「ほんとうに生きる人になる道」はどこにあるのか。どうすれば「誰も争う必要のない人」になれるのか。「人間に生まれたことを喜び、生きてきたことに満足できるもの」になるにはどうすればいいのか。そんな問いを持ち続けておられたんやろなあ。
「これを聞いてな、ずっと問い続けるってしんどいやろなあ〜と思つた。だって、わからないうつてことが問いを持つてつことやん。はよわかりたいやん」
「でもな、10年くらい前の話やけど、授業終えて教室を出ようとしたら、ある生徒が近づいてきて、笑顔で『う聞いてきたんよ』」
「先生、俺高3やで。受験生やで。なんで親鸞さんのこと勉強せなあかんの?」
「先生はどう答えたんですか?」
「情けないことにな、どう答えたかは覚えてない。焦りながら、適当なことを言つたと思う。でもな、それ以来、その質問は私の中で大きな問い』となつたのよ」
「そんな中ある時、本山の同朋会館の廊下でこんな標語に出あつてん」
答えは世界を閉じる
問いは世界を開く
「最初はそれほど気にならんかつた。でも、前を通るたびになんか引掛かつて、ついにはその前で立ち止まっている自分がいた。なぜか?言葉の意味がわからなかつたんよ。でもな、よつわからんけど引き寄せられてん。でも今は、あ〜こつこつとちやうかつて思つねん」
「答えを得たということは何かつた」といつころに立つて生きるということ。するとどうも問いを持たない。だってわかっているんやから。その問いに蓋をしてしまつた。たこえそれが大事な問いであつても、または本当はわかつていなくても、答えを持つてしまつたらそれでおしまい。そこにもつともつと世界が広がるような問いが残されていたとしても、もう見向きもしない。だってわかっているから。わかるかな、この感覚?」
「なんとなくわかる気がする〜」
「いいよ〜その答え〜」こでは『わかります〜』とは言いにくいよな。ありがと」
「でな、答えではなく問いを持つて生きるということ。『わかっている』という自分で立つて生きるということ。わかりたいと願ひ、その問いを大事にして生きるってこと。だからその人の前には世界が広がる。それが『問いは世界を開く』という意味と違つかなと思つたよ」
「世の中にはな、答えに出あうことで、さらに新たな問いが生まれて、そのことで世界が広がりがつてくるよな、そんな問いがあるのよ。卒業生の彼が私にくれたのはそういう問いやと、その張り紙の言葉が教えてくれたのよ」

法然上人の問いは「すべての人が、ともに助け合つて生きる」ことのできる道」は、どこにあるのかというものでした。親鸞聖人の問いは、まさに「人と生まれたことの意味は何か」ということだったのでしょう。
聖人は「念仏して救われていきなさい」と教えられます。でもその答えは世界を閉じますこととなく、むしろ新たな問いにつながることで世界を開き、安心してその問いに時に迷い、時に励まされて生き抜かれました。そんな「問いを持つて」新たな人生が始まることを教えてくださった人の御恩に報いる集いが今年も勤まります。報恩講です。

友だち関係、家のこと、学校のこと…専門カウンセラーにメールで相談してみませんか

2023年
11月21日(火)~28日(火)

報恩講

真宗本廟

真宗本廟では、11月21日から28日まで七昼夜(8日間)にわたって報恩講が勤まります。皆さまのご参拝を心よりお待ちしております。

- ◆報恩講の特設サイトを開設しています。法要の最新情報は特設サイトをご覧ください。
- ◆法要にあたり、木越渉宗務総長からのメッセージを公開しています。ぜひご覧ください。

報恩講期間中は、真宗本廟取骨、御影堂での本山永代経・本山申経のお取り扱いがございません。この期間にご遺骨を持参された方は、参拝接待所受付にてお預かりし、11月29日(水)にお取めします。

21日(火) 28日(火) 見聞『教行信証』坂東本
—親鸞聖人から私たちへのメッセージ— [阿弥陀堂]

11:40~12:40 ※11/22.23.25.28は12:40~のみ
『教行信証』坂東本(影印本)を展示し、教学研究員が解説します。
※1回約15分。開催時刻までに阿弥陀堂内にお集まりください。
※展示は、解説時に限りです。

基本日程 -報恩講の1日-

6:50	晨朝法要 御文・法話 [阿弥陀堂・御影堂]
9:30	日中集会(開式) 日中法要にご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください
引続	法話
10:00	日中法要 [御影堂]
引続	帰敬式 速夜法要にご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください
13:15	速夜集会(開式) 門徒感話(生徒感話)・報恩講法話
引続	初夜法要 御文法話 ※日によって開始時間が異なりますので、詳細は特設サイトをご覧ください。
引続	初夜勤行

インターネットライブ配信のご案内

のマークの法要ならびに行事をインターネットにてライブ配信します。ぜひご覧ください。 [YouTube真宗大谷派 公式](#)

22日(水) 27日(月) 帰敬式(おかみそり) [御影堂]

仏・法・僧の三宝に帰依することを誓い、仏弟子としての名を「法名」をいただく、生涯に一度の大切な儀式です。
[礼金]お一人1万円(20歳以下お一人5千円)
受式を希望される方は、当日9:00~9:30までに参拝接待所へお越しのうえお申込みください。



21日(火) 御正忌報恩講讃仰法要(音楽法要) [御影堂] 9:00~

21日の初速夜に先立ち、作曲家の新実徳英氏により作曲された音楽法要曲を用いて、同朋唱和によりご参拝の皆様と共に勤められます。法要前に慶讃テーマソングメドレーを演奏します。



25日(土) 御伝鈔 [御影堂] 16:30~

夕刻、親鸞聖人の御真影を前に、聖人のご生涯を伝える『御伝鈔』(上・下巻)が拜読されます。



28日(火) 祖徳讃嘆 [御影堂] 9:00~

木村宣彰氏(真宗大谷派講師・富山教区)
親鸞聖人の祥月命日である11月28日、聖人の恩徳を讃嘆し、その教えをいただく場として行われます。

坂東曲 [御影堂] 10:00~

結願日中(御満座)に勤まる「坂東曲」は、僧侶たちが体を大きく振りながら、念仏と和讃を繰り返す力強い声明で、当派のみ伝わります。



真宗門徒として帰敬式(おかみそり)を受けましょう

報恩講期間中の催し

21日(火) 27日(月) 重要文化財(鐘楼)修理現場公開 [受付:鐘楼素屋根北側] 11:30~13:00/15:00~16:30

修理中の鐘楼の様子を間近でご覧いただけます。
※日程の都合により時間変更となる場合があります。
※鐘楼素屋根は修理工事用の足場となりますので、動きやすい服装と歩きやすい靴でお越しください。



22日(水) 28日(火) お斎 [大寝殿] 11:40~12:40~ ※11/25は12:10~のみ、11/28は12:40~のみ
報恩講のお斎(精進料理)を、大寝殿でお召し上がりいただけます(全席椅子席予定)。※従来のお膳形式で提供予定。

[冥加金] お一人/4千円(当日、受付にてお納めください)当日券:お一人/5千円
[定員] 各回80名(定員になり次第締切。事前にお問い合わせください。)
[問い合わせ] 本廟部・参拝接待所 TEL 075-371-9210 ※大寝殿へは、参拝接待所よりお入りください。



21日(火) (公社)大谷保育協会 京都支部代表園児による報恩講合同参拝・公開保育 [真宗本廟視聴覚ホール] 11:00~12:15

親子で取り組むレクリエーションがほほえましい公開保育です。

22日(水) 高倉幼稚園 園児による発表会 [真宗本廟視聴覚ホール] 11:00~12:00

園児たちが歌やダンスを披露します。どなたでも観覧いただけます。

23日(木・祝) 大谷中・高等学校 吹奏楽部演奏会 [御影堂北側広縁] 11:30~12:10

各年代で楽しめる曲が演奏されます。躍動感溢れる演奏をお楽しみください。



22日(水) 23日(木・祝) 25日(土) 26日(日) 東本願寺キャラクター大型パルーン [境内南側] 9:30~16:00 ※22日は12:00~16:00

今春の慶讃法要で好評だった東本願寺キャラクターをモチーフにした大型パルーンが再び登場!



23日(木・祝) 子ども報恩講のつどい [御影堂] 11:50~15:00 定員200人

正信偈のお勤め・お話を楽しいレクリエーションを行います。
[お話] 一楽 真氏 (大谷大学学長)
詳細は青少年センターホームページをご覧ください。



23日(木・祝) 25日(土) 26日(日) 28日(火) 子ども参拝案内所 [境内白洲] 9:00~16:00 (28日は正午まで)

子どもたちに向けた両堂の参拝案内を実施。参拝記念品をお渡しします。工作や紙芝居、読み聞かせが楽しめます。



24日(金) 第31回真宗教学学会講演会 [しらん交流館2階 大谷ホール] 18:00~20:20(開場17:00)

[テーマ] 人と生まれて一信仰と社会一
[講師] 島園 進氏 (大正大学客員教授、NPO東京自由大学学長、東京大学名誉教授)
東館 紹見氏 (大谷大学教授)
※詳細は宗派ホームページをご覧ください。

26日(日) 28日(火) 親鸞聖人讃仰講演会 [しらん交流館2階 大谷ホール] 各日18:00~20:30(開場17:00)
宗祖親鸞聖人のあきらかにされた本願念仏の教えをともに学び、その生涯を偲ぶ講演会です。

- 26日(日) 「ままならない体を生きる」伊藤亜紗氏(東京工業大学教授・未来の人類研究センター長)
- 27日(月) 「証道という成仏道-証から証果へ-」小川一乘氏(大谷大学名誉教授)
- 28日(火) 「門徒という生き方-親鸞聖人の御生涯に学ぶ-」沙加戸弘氏(大谷大学名誉教授)
- 28日(火) 「願心莊嚴の浄土」本多弘之氏(親鸞仏教センター所長)
- 28日(火) 「『教行信証』の三部経」織田頼祐氏(同朋大学特別任用教授・大谷大学名誉教授)
- 28日(火) 「救いと罪-唯、差別するを除く-」池田勇諦氏(同朋大学名誉教授)

27日(月) 御正忌報恩講コンサート

[しらん交流館大谷ホール] 11:30~13:30
各教区の合唱団及び関係学校により仏教讃歌を披露します。

毎日開催

東本願寺 お買い物広場 [境内白洲] 9:00~16:00 (25日は18:30まで、28日は7:00~16:00)
東本願寺発行の書籍やオリジナルグッズを販売。

報恩講園児絵画展 [御影堂北側高廊下・しらん交流館] ※時間は各施設の開所時間に準じます。(28日は12:00まで)
(公社)大谷保育協会加盟園と京都市内の各園から募集した園児の絵画を展示します。※京都駅前公益地下ストリートギャラリーでも展示しています。

報恩講人権パネル展 [境内白洲] 9:00~16:00 (28日は12:00まで)
解放運動推進本部と女性室で取り組んでいる課題に関するパネル等を展示します。

真宗10派本山 報恩講巡り(スタンプラリー) [境内白洲]
真宗教団連合による真宗10派の報恩講を巡るスタンプラリー企画を実施します。境内にスタンプ及び台紙を設置していますので、ぜひご参加ください。

おてらおやつクラブin東本願寺 [子ども参拝案内所(開日のみ)・しらん交流館1階ロビー]
皆様からの「おそなえ」をお預かりし、真宗本廟(東本願寺)内の御本尊に「おそなえ」した後、経済的に困難な状況にあるご家庭や、支援を必要としている子どもたちに「おすそわけ」します。みなさまのご協力をお願いいたします。

[期間] 11月21日(火)~11月30日(木)
[対象物] お米、お菓子、乾麺、レトルト食品、飲み物、缶詰、調味料等の食品類、洗剤等の生活用品 ※食品類は賞味期限が2024年1月5日以降のもの ※お米 玄米:2年以内に収穫されたもの。白米:精米してから夏を越さずに1年以内。複数の精米日が混入するものは半年以内。 ※精米日をご記入ください。
[方法] 郵送
[受付・問い合わせ] 青少年センター 〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199 TEL 075-354-3440 9:00~17:00 メール oyc@higashihonganji.or.jp



涉成園秋のライトアップ

涉成園では、夜間ライトアップを実施しています。報恩講にお参りの際には、あわせて夜の涉成園もお楽しみください。



[期間] 10月28日(土)~12月2日(土)
[夜間開園時間] 17:00~22:00(最終受付21:30)
[庭園維持寄付金] 800円
[問い合わせ] 本廟部・参拝接待所 TEL 075-371-9210

首都圏・福岡都市圏に転居されたご門徒と郷里のお寺のご縁をつなぐ



東本願寺 仏事サポートセンター



亡くなる人の数が増え続ける「多死社会」——。首都圏では「葬儀」や「終活」に関するビジネスが盛んになり、大々的な宣伝も行われています。郷里から遠く離れて暮らすご門徒も少なくない今、仏事について相談する相手次第では、郷里のお寺との関係が途切れてしまうことも……。

東本願寺仏事サポートセンターとは、失われかけた仏事本来の願いを丁寧に伝え、途切れかけた郷里のお寺とのご縁をつないでいくことを使命として、東本願寺真宗会館(東京都練馬区)と九州教務所福岡教務支所(福岡県福岡市)にそれぞれ開設された仏事相談窓口です。

ここでは、首都圏にお住まいの転居門徒と郷里のお寺をつなぐ東本願寺仏事サポートセンター東京の取り組みをご紹介します。

ご縁をつなぐ 取り組みの紹介

首都圏「仏事代行」制度

首都圏の転居門徒の葬儀において、郷里のお寺の都合がつかない場合に真宗会館が葬儀を代行し、今後もお寺とご門徒とのご縁が確実に継続されていくことをサポートする制度です。

- 本制度は郷里のお寺の都合がつかない場合の代行制度です。葬儀にあたっては、まずは郷里のお寺にご連絡ください。
- 福岡都市圏における仏事代行については、東本願寺仏事サポートセンター福岡までお問い合わせください。

首都圏在住門徒のつどい

真宗会館や首都圏の会場にて住職と転居門徒がともに集い、仏法にふれる機会を支援する取り組みです。

寺院紹介

首都圏にて新たなご縁を結びたいという方に対し、そのご要望に沿ったお寺をご紹介します。

仏事相談

仏事に関する疑問や終活に関するお悩みに答える相談窓口です。



東本願寺仏事サポートセンター東京の取り組みを紹介するパンフレット。寺院・ご門徒宅にも無償で送付しますので、お気軽にお問い合わせください。
サイズ: 縦29.5cm×横10cm(四折り時)

特別インタビュー

転居門徒とのご縁を大切にする お寺さんの想い

仏事サポートセンターには日々さまざまな相談が寄せられています。なかでも増えているのが、「葬儀社紹介の僧侶によって葬儀は執行されたものの、その後の仏事(中陰のお勤めや納骨、法事、法名など)をどうしたらいいか悩んでいる」という相談です。葬儀社紹介の僧侶の中には葬儀だけを執行し、その後の付き合いをしない場合もあります。葬儀を縁として真宗の教えにふれる機会が絶たれてしまうのです。ここでは、そのような事例に胸を痛めた経験から、平日より転居門徒とのご縁をつなぐことに心をくだいておられるお寺さんをご紹介します。

対話を途切れさせないためにできること



新潟教区第24組 正念寺
(新潟県十日町市)
住職 わたなべ まさし
渡辺 正志氏

地域の特徴と転居門徒の状況をお聞かせください。
この辺りは雪国ということもあって過疎化が進む地域です。ただ、首都圏へのアクセスは良く新幹線で2時間ほどになります。過疎地のため転居される門徒は多く、主な転居先は新潟市内や首都圏です。転居先へ定期的にご案内を送付しているのですが、宛先不明となった場合にはすぐに状況確認しています。親戚や門徒の横の関係も薄くなっているため、門徒さんと直接つながることを意識しています。

首都圏の転居門徒の葬儀はどのように対応されていますか。
仏事代行制度も利用していますが、まずは私自身が葬儀をお勤めするというのを大切にしているため、年に数回は葬儀や法事のために首都圏に出ています。首都圏は火葬場の都合もあって葬儀までの期間が比較的に長いので、かえって都合が付きやすい面もあるんです。



転居の結果、ご門徒とご縁が途切れてしまうという事例が全国的にも増加しています。
お寺で作成した『ご葬儀の手引き』(写真)を門徒さんにお配りしています。近年、葬儀を葬儀社さんとだけ相談して全てを決定してしまうというケースが増えているように感じます。この手引きは「葬儀の際にはお寺にご連絡ください」という流れをあらかじめ伝えるためのものです。今回のサポートセンターのパンフレットのように、宗派からの発信も大切ですが、まずお寺が一人ひとりの門徒さんと丁寧に向き合う姿勢が求められると思っています。

転居門徒とのつながりを大切にされているご住職ですが、仏事代行制度をどのようにお考えでしょうか。
距離が離れている分、お便りや寺報だけでは伝わりきれない部分も多くあります。だからこそ、直接会って対話する機会を持ち続けたいと感じています。ただ、お寺の都合でどうしても対応できない場合もあります。仏事代行制度はいかなる場合でも転居門徒との対話を途切れさせないための制度なのかもしれません。

首都圏に相談する場所があることの安心感



東北教区気仙組 長安寺
(岩手県大船渡市)
副住職 きん あきまさ
金 暁正氏

大船渡市の土地柄とお寺を取り巻く環境を教えてください。
他宗が盛んな東北地方にあって、この地域は真宗門徒の数が多く、真宗の土徳が比較的残っています。また東日本大震災で大きな被害があった地域でもあります。

転居門徒の状況をお聞かせください。
盛岡市や仙台市への転居も少なくありませんが、最も多いのは首都圏です。また、震災によって転居を余儀なくされた方もたくさんおられるのですが、お墓だけは残したいという声をよく耳にします。住み慣れた家が震災で失われたうえにお墓まで無くなったら、いよいよ故郷に帰ってくる理由がなくなるといえるようなのです。

転居門徒の葬儀はどのように勤めておられますか。
遠方の首都圏まで出向くことは難しいので、転居先の知人のお寺にお願いしたり、仏事代行制度を利用したりしています。門徒さんからも仏事代行制度があるのは安心する、という声もありました。もっと多くの門徒さんに制度のことをあらかじめ知っていただきたいと思います。

今回、仏事サポートセンター東京のパンフレットを転居門徒の皆さんにお配りいただいたと伺いました。
以前、仏事代行制度のパンフレットを活用したこともあるのですが、サポートセンターの名称を用いたことにより、門徒さんに一層伝えやすくなりました。葬儀に限らず、真宗の教えや生活、仏事など、多岐にわたって相談する場所があると伝えることができるのは重要なポイントでした。

転居門徒とのつながりのなかで大切にしていることをお聞かせください。
門徒さんによってそれぞれ違った背景やお困りごとをお持ちです。だからこそ、いかに細やかな状況を把握し、距離は離れていても心が離れないように向き合っていくことが大切なんだと思います。



東本願寺
仏事サポートセンター

東本願寺 仏事サポートセンター 東京
03-6913-2273 担当: 東本願寺真宗会館(東京宗務出張所)



東本願寺 仏事サポートセンター 福岡
092-734-0208 担当: 九州教務所福岡教務支所



※「東本願寺仏事サポートセンター」とは、東本願寺真宗会館および九州教務所福岡教務支所に設置する窓口の呼称です。

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

第37回

生まれた順に死んでいく有り難さ

富山教区 第6組 大泉寺 釣り 章子



今月の法話

「仏法は、聴聞にきわまることなり」（蓮如上人御一代記問書）と教えられているように、真宗門徒は昔から仏法聴聞を大切にしてきました。日々の生活の中で、仏さまの教えを聞いていただくことを願いに、毎月一話ずつ掲載します。

「とんちの一休さん」でおなじみ「二休宗純禪師」。ある日、一休さんは「何かめでたい言葉を書いてほしい」とお金持ちの商人に頼まれます。そして「親死 子死 孫死」と書きました。それを見た商人はカンカンに怒りますが、一休さんは落ち着いて、こう返します。「それでは、あなたは『孫死 子死 親死』の方がめでたいのですか。『親が死に、子が死に、孫が死ぬ』、人にとって生まれた順番に死を迎えることができる、これほどめでたいことがあるでしょうか？」と。

今から三十五年前のある日の夜、当時小学校三年生の私は、一年生の弟と家族で近所のご門徒さんが作ってくださったカレーを食べておりました。そこに一本の電話が入り、母が入院していた産婦人科へ向かい、新しく誕生した小さな命と対面します。私たちが姉弟は、もう一人の弟が産まれたことがとてもうれしくて、目の前の小さな命をずっと見つめていました。

次弟の誕生により、私と長弟に「人思いやる気持ち」が芽生えます。そして次弟の成長を見守りながら姉弟喧嘩もせず、仲良くすくすくと成長していきました。

十数年後、長弟は母親の実家のお

寺の住職に就任。次弟が自坊の大泉寺の跡を継ぐことになりました。私とはいうと、幼い時からずっとお寺のことは「他人事」。美容に興味があったので、大学卒業後は某化粧品会社に就職しました。その後サラリーマンの夫と結婚し、二人の娘にも恵まれ、仕事に子育てに充実した日々を過ごしておりました。

今から十二年前に母が急死。当時八十歳だった祖母は「自分の娘の死」を受け入れることができず、通夜葬儀にも参列することができませんでした。そしてそのショックから認知症がどんどん進行し、施設に入所することに。

母親の急死により、私は今まで「他人事」だったお寺に初めて関わることになりました。幼い子どもを育てながらフルタイムで仕事、そこにお寺の手伝いが加わり、身体も心も休まらず精神的にどんどん追い詰められていきました。

それから六年の月日が流れ、娘たちも成長。長女も小学校に入学し、生活も落ち着き始めた頃に、今度は次弟が急死。私と長弟にとって心の拠り所となる存在だった次弟が亡くなり、言葉には言い表せないほどの深い悲しみに苛まれます。長弟と顔を合わせるときにやり場のない怒りをぶつけ合

うこともあり、互いに傷つけ合う関係になってしまいます。「強い絆」で結ばれていると信じていた想いは、いとも簡単に脆くも崩れてしまったのです。

既に母の実家のお寺の住職をしていく長弟に今更戻ってきてもらう訳にもいかず、私は跡を継ぐことを決断しました。今までの生活を全て捨てて家族で大泉寺に移り住み、金沢真宗学院に入学。学生をしながら子育て、仏事に携わる生活が始まります。

たくさんのご門徒さんと関わる中で知ったのは、自分より先にお子さんを亡くされるなど「受け入れがたい死」を経験されている方の多さでした。何で自分ばかりこのような目に遭わないといけないのか…。当時はそんな思いにとらわれておりましたが、さまざまなお出遇いとおして、人の数だけ悲しみは存在し、皆それぞれ多くのことを抱えながら一生懸命生きておられるという事を思い知りました。

認知症の祖母は今でも健在です。冒頭の一休さんの言葉に倣えば、「子死 孫死 親健在」ということになりました。私は当たり前のように娘たちより先に命を終えるものと思っています。生まれた順番に死んでいくということだけが、幸せとは限らないのかもしれませんが、「親が死に、子が死に、孫が死ぬ」、

この「生まれた順番に死んでいく」という縁は、本当に一休さんの言葉通り「有る」こと「難き」、「ありがたいこと」なのだ、私としては思わざるを得ないのです。

浄土にてかならずかならずましまいらせそうろうべし
〔末燈抄〕「真宗聖典」二六〇七頁

これは、親鸞聖人が最晩年に一人の門弟に書かれたご消息の末文で、現在の私を支えている言葉の一つです。いのちある限り別れは避けることのできないもの。しかし、親鸞聖人はお浄土といういのちの出遇い直しが果たせる場があると切り切られます。お念仏を申すということが既に、母や弟と出遇い直すことであり、私を念仏の場に導いてくれている大切な諸仏のはたらきなのでしょう。

自分が思い描いていた人生とは全く違う人生を歩むこととなり、苦悩する日々でしたが、たくさんの方々に支えられ、自分自身の姿を見つめ直しながら、少しずつ前を向いて歩み始めています。先に亡くなられたすべの方々は、お念仏となつて生き続けている。このことを拠り所として、ご門徒や家族とともに、日々の聞法生活をお大切に過ごしていきたいと思っております。

永田文昌堂

山下義信と童心寺
新田光子著 定価660円(税込)
広島戦災児童育成所の運営と参議院議員としての政治活動、また童心寺住職として、本願寺派布教師としての山下義信師の活動を、戦後七〇年にわたる童心寺の歴史としてまとめる。

宗教哲学と真宗民俗学
—真宗信仰の諸相—
和田俊昭著 定価11550円(税込)
ヨーロッパ思想をあつかった初期の論文から、浄土真宗における開山(宗祖親鸞・中祖蓮如)信仰についての論文、儀礼と真宗文化論・民俗論を中心とした晩年の論文など全十九本を収録。著者の研究を凝縮した力作ぞろいの遺稿集。

〒600-8342 京都市下京区花屋町通西入 TEL 075-371-6651 FAX 075-351-9031

東本願寺御用達

日下念珠店

〒600-8174 京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話 (075)351-6325
FAX 0120-89-5255
定休日：日曜日

親鸞仏教の基礎研究
川添泰信著 定価13200円(税込)
本書は、浄土仏教の問題、親鸞仏教の問題、真宗伝道の問題、真宗聖教の書誌および概説の四部構成。主に法然浄土教、親鸞浄土教における生死の問題、真宗伝道論の研究、三帖和讃と教行信証、「破邪顕正抄」の書誌などについて考察する。

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念
紅地天人之図総手刺繍御打敷謹納

〒600-8159 京都市下京区烏丸通東本願寺前
TEL フリーダイヤル 0120-07-6391
FAX フリーダイヤル 0120-34-2816
https://shibata-houiten.com/ @SHIBATAHOUITEN
(Webカタログ掲載・商品動画配信)

真宗大谷派 東本願寺御用達 京法衣事業協同組合加盟店

株式会社 **柴田法衣店**

木越内局一部交代

—参務に佐々木高氏、西受秀文氏が就任—

9月27日、酒井良参務、尾畑英和参務の辞任に伴い、木越涉宗務総長は同日付で佐々木高氏、西受秀文氏を参務に任命した。また、参務の任命に合わせ、担当部門の変更を行った。

新たな内局の顔ぶれは次のとおり。



前列左より

古賀堅志参務[九州教区浄泉寺]
木越涉宗務総長[金沢教区光専寺]
那須信純参務[東京教区慈願寺]【儀式指導研究所長・首都圏教化推進本部長】

後列左より

佐々木高参務[能登教区长福寺]【宗務改革推進本部長】
長峯顕教参務[九州教区西福寺]【財務長】
西受秀文参務[大阪教区受西寺]【解放運動推進本部長・青少幼年センター長】

第47回「下京自衛消防隊訓練大会」に出場

「小型動力ポンプ操法の部」で12年ぶりに最優秀賞を受賞

9月8日、第47回「下京自衛消防隊訓練大会」が浄土真宗本願寺派(西本願寺)参拝者駐車場を会場に開催された。

本大会は京都市下京区に所在する百貨店やホテル等の自衛消防隊が参加し、訓練操法に基づいた消火活動を披露し合うもので、本年は36の事業所から計55隊が参加し、東本願寺からも真宗本願自衛消防隊員12人が出場した。

大会当日は残暑が厳しい中、各事業所ともに気迫溢れる操法を披露し、真宗本願自衛消防隊は、「2号消火栓操法の部」及び「小型動力ポンプ操法



最優秀賞を受賞した「小型動力ポンプ操法の部」

の部」において最優秀賞を、「消火器操法の部」及び「屋内消火栓の部」では優秀賞をそれぞれ受賞した。なお、「小型動力ポンプ操法の部」については、東西本願寺による直接対決が恒例となっており、今回の最優秀賞受賞は、2011年以来、実に12年ぶりの快挙となった。

真宗本願自衛消防隊は、火災発生時における初動対応を行う実動部隊として年度ごとに宗務役員の中から宗務総長の任命により選出される。日頃から、防災知識の習得及び技術向上のための訓練を行っている。

金沢教区

9月2日、金沢教区内の東西の信徒による「合同法要」の「いのちのつどい」が御山御坊(本願寺金沢御堂)ゆかりの地、金沢城公園三の丸広場で勤まった。

御山御坊は、1546(天文15)年、大坂本願寺10代証如上人によって、現在の金沢城公園内に創建されたと伝えられている。同地での合同法要は、1998年の蓮如上人500回御遠忌の際の「いのちのふるさとフェスティバル」以来25年ぶり。

法要の前には、京都の両本山から常夜灯の灯明が運び込まれ、金沢両別院輪番が1本のろ



両本山から運ばれた灯

うそくに火を移し、灯明に火が灯された。そして、真宗大谷派の木越涉宗務総長、浄土真宗本願寺派(西本願寺)の池田行信総長から挨拶があった後、東西合同の勤行が勤まった。最後には、「金

沢澄音会」により、舞楽「納曽利」が披露された。

翌3日には、稚児行列が行われ、行列の前後にはそれぞれの別院で法要が勤まった。

東西両派が心を一つに親鸞聖人の恩徳をしのぶ機会となった。



東西合同法要の様子

東西本願寺合同法要勤まる

小松大聖寺・福井教区

9月15日から17日まで、吉崎御坊の開創550年を記念し、東西の有志僧侶による「吉崎御坊開創550年記念法要」が吉崎御坊跡(福井県あわら市)及び東西の吉崎別院で勤修された。

吉崎御坊は、1471(文明3)年、蓮如上人によって創建された。開創から550年にあたる2021年にも法要を勤めた

が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、広く参拝を呼びかけることができなかった。しかし、今年の5月に新型コロナウイルスの位置づけが見直されたことから、再び法要を執り行うこと



蓮如上人像前での勤行の様子

となった。

初日の15日は、吉崎御坊跡にある蓮如上人像前で法要が勤められ、東西の僧侶10人により、仏説阿弥陀経が誦誦された後、本願寺派吉崎別院輪番より法話があった。夕刻には吉崎西別院にお

いて、パネルディスカッションが行われた。翌16日には、東西の別院で法要が勤められ、最終日の17日は、再び吉崎御坊跡の蓮如上人像の前で法要が勤まった。

東西の垣根をこえ、ともに蓮如上人の御遺徳をしのび、念仏するご縁となった。



吉崎別院での法要の様子

被災されました皆さまに衷心よりお見舞い申し上げます

真宗大谷派(東本願寺)

2023年7月の大雨について

7月からの全国的な大雨による被害について、特に九州教区において5カ寺の寺院から建物への床上・床下浸水等の被害が報告されています。また、多くのご門徒宅が被害を受け、1人のご門徒がお亡くなりになりました。宗派としては被害状況に鑑み、九州教区に対し、30万円の見舞金を給付いたしました。

能登地方を震源とする地震の救援金の取り扱いについて

本年5月5日に発生した能登地方を震源とする地震により、能登地区の珠洲市を中心に被害もたらされました。

このたび、令和5年奥能登地震に対し、総額400万円の救援金が全国から宗派に寄せられましたので、全額を能登教区に給付いたしました。

また、能登教区に対して全国の教区・寺院・団体・個人等から直接1,537万9,929円(2023年9月11日現在)の救援金が届けられました。

全国より心温まるご支援を賜りましたことに対しあらためて厚く御礼申し上げます。

多磨全生園 「さようなら和光堂法要」勤修

9月12日、ハンセン病療養所の多磨全生園(東京都東村山市)内にある和光堂にて、「さようなら和光堂法要」が勤まった。和光堂は、国の隔離政策下での園内生活の中で、親鸞聖人の教えを大切にされてきた方々(真宗報恩会)が集い、仏事を行う場所として相続されてきた。このたび、入所者の高齢化と減少から真宗報恩会が閉会することとなり、管理してきた和光堂も園に返還することとなったため、法要が勤められた。

コロナウイルス感染防止のため、真宗報恩会の会員は、別室からオンラインでの参加となったが、法要では、動行に先立ち、真宗報恩会に伝わる讃歌「親鸞さまはなつかしい」が歌われ、それぞれが療養所の生活の中で出遇われた親鸞聖人の姿に思いをはせた。引き続き、東京教区内の有志スタッフと教務所員により動行があり、スタッフによる法話では、「これまでの入所者の方との交流がそのまま法話であった」と語られた。

日程の最後には会員も和光堂に参集し、代表から、これまでに会に関わってきた人々への感謝とともに、これからを担う若い僧侶に向け、自らの半生を通して、隔離政策の被害の実相と、その生活の中で精神的に支えられた真宗報恩会での出遇いについて語られた。

入所者の高齢化や減少ということの背景には、入所者が療養所の外でも安心して生活できる社会になっていない現実がある。このたびの法要から、会を閉じざるをえない状況を生みだしている、今なお隔離政策を乗り越えていない私の課題が見つめ直される。



和光堂



法要の様子

ご案内

詳しくは、真宗大谷派(東本願寺)ホームページ「法要・法話のご案内」まで
もしくは、右のQRコードを読みこんでください。



真宗本廟(東本願寺境内) 京都市下京区烏丸通七条上

- ◇ 晨朝(おあさじ)【場所】阿弥陀堂及び御影堂 【時間】毎日7時～
- ◇ 晨朝法話 【場所】御影堂 【時間】毎日7時30分頃～ 約15分
- ◇ 真宗本廟法話 【場所】視聴覚ホール・御影堂・参拝接待所仏間
【時間】通常10時10分～/13時10分～ 約25分
速夜日(12・27日)13時10分～ 約25分 御命日(28日)9時30分～ 約15分
※その他、時間・会場を変更する場合があります。
- ◇ 参拝接待所ギャラリー 【時間】9時～16時
「親鸞聖人のご生涯」(常設展)開催中

詳しくは、真宗大谷派ホームページまで

東本願寺 検索

しんらん交流館 京都市下京区諏訪町通六条下上柳町199番地

真宗本廟(東本願寺)へご参拝の際には、ぜひ真宗教化センター しんらん交流館にお立ち寄りください。
開館時間/平日 9時～18時 土日祝 9時～17時 休館日/毎週火曜日

- ◇ 11月の定例法話【場所】1階 すみれの間
【時間】毎日14時～ 勤行後約1時間
※毎週火曜日、12日、19～29日は休会、その他都合により休会する場合があります。
- ◇ 11月の東本願寺日曜講演【場所】2階 大谷ホール
【時間】9時30分～11時 【講師】◆11月5日…休会◆12日…佐賀枝夏文(大谷大学名誉教授)◆19日…休会◆26日…休会
- ◇ 交流ギャラリー(1階)【期間】開催中～12月18日(月)
「梅林秀行さんと歩く 東本願寺 水と緑の散歩道」展
- ◇ 公開講演会【場所】2階 大谷ホール 【日時】11月6日(月)18時～19時30分
【講師】梅林秀行(京都高低差崖会崖長)×金度源(立命館大学准教授)
【参加費】550円
- ◇ しんらん交流館 Tera School【対象】小学1年生以上(2年生までは要保護者同伴)
【日時】毎週月曜日 18時～20時30分(1階 すみれの間)
隔週日曜日 14時～16時30分(1階 会議室ABC)
http://www.teraschool.jp

東本願寺いのちとこころの相談室 【TEL】075-371-9280
【開室時間】毎週木曜日 13時～17時(祝日または休館日、その他行事日は閉室)

全国のお寺での取り組みや読みもののページなど、さまざまな情報を発信しています。

浄土真宗ドットインフォ

検索

宗議会議長選挙 宗議会の沼秋香議長が辞意を表明したことに伴い、9月5日、第74回宗議会(臨時会)が招集された。本会議にて議長辞任の許可がなされた後、議長選挙が行われ、望月慶子氏(山陽教区第6組浄泉寺衆徒)が議長に選出された。

テレビ放送のお知らせ

東本願寺や渉成園が、下記の番組で紹介されます。ぜひご覧ください。

「芸術が彩る京都の名庭」の放送回で 渉成園が紹介されます。
 (放送日時) KBS京都:2023年11月7日(火)20:00から
 BS11:2023年11月13日(月)19:00から
 東京MX:2023年11月12日(日)11:00から
 (出演) 常盤貴子(俳優)・小川勝章(植治次期12代)

●特別番組『京都紅葉生中継2023』
 東本願寺・宮御殿に特設するスタジオから、京都各地の紅葉が生中継されます。
 (放送日時) 2023年11月29日(水)19:00～20:55
 (放送局) KBS京都・BS11同時生放送

読者のお便り

「正信偈」の篆刻作品

大阪府泉佐野市 小谷征(84歳)

昨年のお盆前に、「正信偈」の篆刻作品を制作しました。約3センチ角の石印材に、一句(7文字)彫ったものを全部で120顆。全紙に押し、今、お内仏横の床の間にかけています。退職後、第二の人生として篆刻を習い始め、20年になります。この制作を機に、お手次寺のご住職にお世話になりながら「正信偈」を書写し、解説本も購入。昨年10月には妻とともに帰郷式を受けました。

7年前に両親の三十三回忌を終えてからは、毎日「正信偈」をあげ、週一回は「御文」も読み上げています。仏壇の横の篆刻作品を時折見ながら、10年後の両親の五十回忌を行いたいと念じ、散歩に励んでいる今日この頃です。



篆刻作品

お便り募集

「同朋新聞」の感想をはじめ日々の思いなどを寄せてください。
 宛先 Eメール/shuppan@higashihongani.or.jp
 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上 東本願寺出版「同朋新聞編集係」
 FAX/075-371-9211
 ※住所氏名年齢電話番号を明記して送りください。紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただきます。

イベントのお知らせ(11月30日)

東本願寺出版 秋のブックフェア 11月1日(水)～11月30日(木)

『親鸞万華鏡』発刊記念 トークセッション いま、親鸞を語る



スピーカー 伊藤比呂美(詩人) 高橋源一郎(作家)
 中島岳志(東京工業大学教授)

日時 2023年11月30日(木) 18時～19時30分
 会場 しんらん交流館・大谷ホール 参加費 1,000円

①オリジナルポストカードをプレゼント

『法語カレンダー』もしくは、『今日のことば』をお買い上げいただいた方に、法語カレンダーオリジナルポストカードをプレゼント。
 ※1回のお買い上げにつき1セットプレゼント



②〈オンライン〉チャリティブックフェア

傷のある書籍を、定価の半額で販売。売上全額を災害の救援金とします。
 ①11月1日～10日 ②11月11日～20日 ③11月21日～30日
 対象書籍を各回で変更します。
 ※東本願寺出版ホームページからの注文に限ります。

③2,000円以上お買い上げで配送料無料キャンペーン

東本願寺出版発行の書籍・グッズを合計2,000円(税込)以上お買い上げで、配送料無料になります。
 ※チャリティーブックの購入も含まれます。



東本願寺出版HP

お問い合わせは



東本願寺出版

検索

入館状況については、研修部まで
お電話でお問い合わせください。

真宗本廟奉仕のご案内

真宗本廟奉仕を機に、
ぜひ「帰敬式」を受式ください。

◆真宗本廟お煤払い奉仕団

2泊

2023年12月19日(火)~21日(木)

1泊

2023年12月19日(火)~20日(水)

歳末、両堂の1年分の埃を竹の棒と大きな団扇
を使って外へ扇ぎだし、新しい年をお迎えする準備
を行う「お煤払い」に参加する奉仕団です。

申込締切 2023年11月9日(木)



◆真宗本廟おみがき奉仕団

2泊

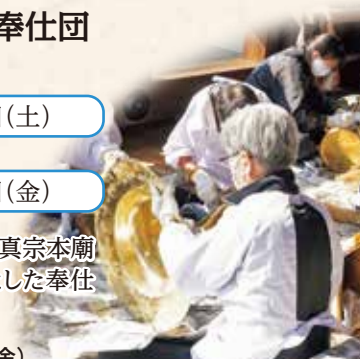
2024年3月7日(木)~9日(土)

1泊

2024年3月7日(木)~8日(金)

春の法要を迎えるにあたって、真宗本廟
内の仏具のおみがきを中心とした奉仕
団です。

申込締切 2024年1月26日(金)



同朋会館には、奉仕団
参加者向けのカフェ
(無料)がございます。
ぜひ上山いだし、お
仲間や他団体の方々
とともに、ホッと一息
つきませんか?



参加費 <2泊3日> 18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円
<1泊2日> 13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円
※上記は大人(15歳以上)の場合です。

【お問い合わせ】同朋会館・研修部 TEL:075-371-9185

通年を通し、一般の奉仕団(寺院・門徒会等)の募集も受け付けています。詳しくは同朋会館HPをご確認ください。

・ご入館される皆様に安心してお過ごしいただけるよう、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施し運営しています。
・具体的な対策については、同朋会館ホームページよりご確認ください。



真宗本廟奉仕
参加者の声を
ご紹介!

ふだんの日常の中では
あまり考えてこなかった事を
真剣に語り合った充実した日々でした。
(70代 女性)

今月号の『同朋新聞』を読んで、

プレゼント付 クロスワードパズルを完成させよう!

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、
クロスワードパズルを完成させましょう!
11月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!

※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

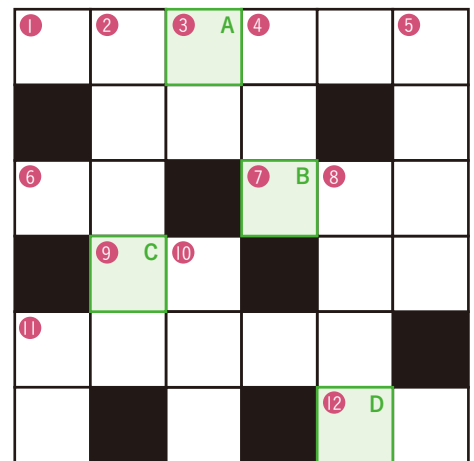
タテのカギ

- 真宗門徒として「帰敬式(〇〇〇〇〇)」を受けましょう。(4・7面欄外)
- 「東本願寺いのちとこころの相談〇〇」は、毎週木曜日に開室しています。(11面)
- 東西本願寺合同法要が勤まり、東西両派が心を一つに「し〇〇〇聖人」の恩徳をしのぶ機会となりました。(10面)
- 『親鸞聖人にであう』親鸞聖人は、「ぜ〇〇〇〇ん」でお亡くなりになったと伝えられます。(5面)
- 『縁一お寺の掲示板一』今月の法語は、「ね〇〇〇〇んというが あわれ人間は その小判に目がくらむ」です。(4面)
- 『縁一お寺の掲示板一』今月は、大垣教区の「こ〇〇〇寺」さんの掲示板を紹介しします。(4面)
- 首都圏・福岡都市圏に転居されたご門徒と郷里のお寺のご縁をつなぐ「東本願寺が〇〇サポートセンター」を設置しています。(8面)

ヨコのカギ

- 『特集』報恩講のお斎(精進料理)を、「〇〇〇〇〇」でお召し上がりいただけます。(6・7面)
- 『現在を生きる』今月のテーマは、「待って来ていた〇〇陀様」です。(4面)
- 『特集』真宗本廟では、11月21日から28日まで七昼夜(8日間)にわたって「報お〇〇〇」が勤まります。(6・7面)
- 『特集』帰敬式とは、仏・法・「〇〇」の三宝に帰依することを誓い、仏弟子としての名告りを表す法名をいただく、生涯に一度の大切な儀式です。(6・7面)
- 『「聞」一今月の法話一』今月の筆者は、富山教区の「〇〇〇〇〇」さんです。(9面)
- 『特集』東本願寺キャラクターをモチーフにした「大型〇〇ーン」が再び登場します。(6・7面)

答え



9月号のクロスワードパズルの答えは、
げ
い
ろ
う

- 読者のこえ (8月号を 読んで)
- ◆「人間というのちの相」今後、また介護現場に立つ日が来るなら、自分の親をみる日が来るなら、下坂さんのことを思い出したいと思いました。(20代女性)
 - ◆「木彫刻の寺」東本願寺の魅力再発見!!の記事が印象に残りました。龍の彫刻2点とも動き出しそうで素晴らしいです。(50代男性)

チャレンジ! 正解者の中から抽選で5名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1000円分」をプレゼントします!

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、下記までご応募ください。今月号の締め切りは11月30日(木) (当日消印有効)です。

メールでも応募できます!!

はがきと同様に必ず上記①②③を記入し、「件名」に「同朋新聞11月号クロスワード応募」と入力の上 higashihonganjishuppan@gmail.comへお送りください。



応募はコチラ

【ご注意】◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報はプレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」に掲載する場合があります。◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
東本願寺出版「クロスワードパズル係」まで

編集室
だより

◇今年も真宗本廟では御正忌報恩講が勤まります。法要期間中、境内ではさまざまな行事や催事が開催されます(6・7面)。なかでも本年初となる『教行信証』坂東本(影印本)の展示や内容の解説では、親鸞聖人がご生涯をかけ、お聖教の受けとめについて、何度も加筆修正を加えられたお姿を間近に感じることができているのではないのでしょうか。報恩講にご参拝の際はぜひご参加ください。◇4面「現在を生きる

る」では、若くしてお連れ合いを亡くされた森谷さん、9面「今月の法話一聞」では、お母さま、弟さまを亡くされた釣さん。それぞれ大切なご家族とお別れをとおして、お念仏の教えを確かめられたお二人です。深い悲しみの中で、お二人が出会った親鸞聖人のお言葉や聞法の歩みに触れ、仏法に出会うということ、お念仏によって開かれる世界の広さや深さについて、あらためて考えさせられました。(林)

『同朋新聞』8月号掲載の
宗派予算への問い合わせについて

真宗大谷派の運営を支えていくため、毎年、各寺院を通じて御門徒の皆様には宗派経常費御依頼という形でお願ひしております。また、お納めいただいた懇志については、相続講金・同朋会員志金・諸懇志などの収入科目にて収受し、さまざまな宗派事業に使用させていただいております。何卒、ご理解いただき、今後も懇志奨励にお力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。(財務部)

2024年1月号より 『同朋新聞』が リニューアル!

2024年1月号から『同朋新聞』がデザインを新たにリニューアルし、紙面が12面から8面となります。

『同朋新聞』は宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要(2011年)をお迎えするにあたり、御遠忌広報の充実を図るため、当初8面だった紙面を2006年7月号から、12面に変更しました。御遠忌法要終了後も、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要への広報を充実していくため、引き続き12面でお届けしていました。

今春、慶讃法要が厳修されたことを受け、広報に特化した紙面を削減し、当初の8面に紙面を戻します。

引き続き、充実した内容の紙面づくりを心掛けてまいりますので、新しい『同朋新聞』をお楽しみください!

新連載が
スタート!

デザインを
一新!

宗派ホームページからも『同朋新聞』をご覧いただけます

